

ロッシーニの写真名刺（カルジャ撮影、1861-62年頃）

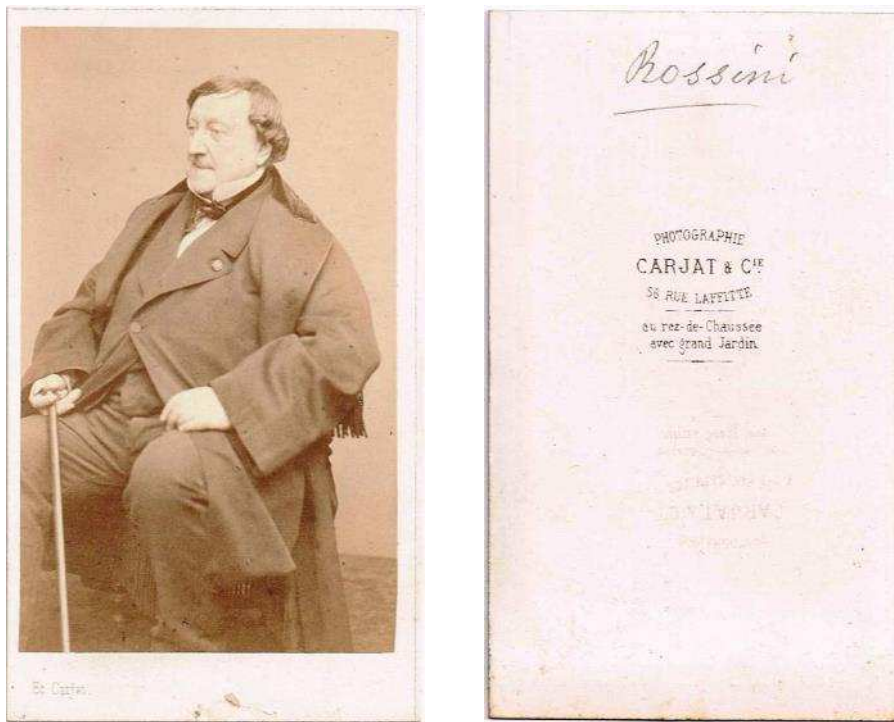
（水谷彰良コレクションより）

ロッシーニの写真名刺（カルジャ撮影、1861-62年頃）

19世紀半ば過ぎにフランスで誕生した名刺サイズの肖像写真は「写真名刺（photo-carte de visite）」と称され、1854年頃から第一次世界大戦頃まで大流行した。1850～60年代の標準的なサイズは10.3×6.2 cmの厚紙台紙に8.7～9.0×5.2～5.4 cmの写真を焼き付け、下部余白に撮影者の名前や社名が宣伝用に印刷され、裏面にスタジオ名称とその住所がスタンプ押しされることもある。

ロッシーニの写真名刺はナダールを含む1850～60年代の著名な写真家によって制作され、中でもジャーナリスト／風刺画家／写真家エティエンヌ・カルジャ（Étienne Carjat, 1828-1906）によるものが複数あり、晩年のロッシーニも訪問者や外国の友人への贈り物に用いている。ここに複製するのは筆者所蔵の写真名刺で、厚紙台紙10.4×6.1 cm、写真部分9.0×5.4 cm。下部左に撮影者が「Et. Carjat.」と印刷され、裏面中央に「PHOTOGRAPHIE / CARJAT & Cie. / 56, RUE LAFFITTE / au rez-de-Chaussée / avec grand Jardin」とスタンプ押しされている。

撮影年は、ロンドンのナショナル・ポートレート・ギャラリー（National Portrait Gallery）による「1861-62年頃」を採用したが、1860年以前の可能性もある。



ロッシーニの写真名刺（カルジャ撮影、1861-1862年頃。筆者所蔵）